

2023年3月期(FY2022) 本決算概要

2023年5月9日
千代田化工建設株式会社

説明者



専務執行役員CFO
出口 篤

エンジニアリング
社会の“かなえたい”を共創する

CHIYODA CORPORATION

SPERA Hydrogen
Shaping the Future of Energy

Our SDGs Materiality

7 エネルギーを安全に そしてクリーンに	9 産業と供給体制の 強靭をつくる	13 気候変動に 具体的な対策を
----------------------------	-------------------------	------------------------

1. ハイライト
2. 損益計算書
3. 利益増減分析
4. バランスシート
5. 受注高・受注残高
6. 2024年3月期予想

【付表】完成工事高・受注残高内訳

【付表】業績推移

1

本年4月にCFOに就任しました出口です。

本日は決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

2023年3月期本決算の概要について、資料に沿って、ご説明申し上げます。

1. ハイライト

1. 事業収益力の一段の向上

期初予想の純利益115億円から上方修正後150億円達成、過去10年間の最高益。

2. 世界的なインフレへの対応

顧客・パートナーと協力してリスクコントロールの強化を徹底し、既存・新規案件への影響を最小化。

3. 収益基盤の安定化

手持案件の着実な遂行、新規分野の積み上げ、リソース配分の最適化により、2期連続の高い安定収益を目指す。

右下2ページ、「1. ハイライト」をご覧ください。

1点目、事業収益力の一段の向上です。

期初予想の純利益115億円から上方修正後の150億円を達成しました。過去10年間の最高益です。

2点目、世界的なインフレへの対応です。

顧客、パートナーと協力して、リスクコントロールの強化を徹底して、既存・新規案件への影響を最小化しています。

3点目として、事業収益の安定化です。

手持案件の着実な遂行と、新規分野の積み上げ、リソース配分の最適化により、2023年3月期、2024年3月期と2期連続で高い安定収益を目指します。

2. 損益計算書

(単位：億円)

	FY2021	FY2022	増減	FY2022 通期予想*2	達成率
完成工事高	3,111	4,302	1,190	4,500	96%
完成工事総利益	228	327	99	350	93%
完成工事総利益率	7.3%	7.6%	+0.3pt	7.8%	-
販売費・一般管理費	△122	△146	△23	△150	97%
営業利益	105	181	76	200	91%
経常利益	114	203	89	200	102%
純利益*1	△126 ^(注)	152	278	150	101%
為替レート(円/米ドル)	122	134		133	

(注) FY2021はイクシスLNGプロジェクト(完工済み)で特別損失△204億円を計上。

*1 親会社株主に帰属する当期純利益

*2 2023年1月に上方修正(期初予想の純利益115億円→150億円)



3

右下3ページ、「2. 損益計算書」をご覧ください。

2023年3月期の実績は表の左から二つ目の水色の部分です。

左から三つ目が前期、2022年3月期対比での増減です。

通期予想は右から二つ目、通期予想に対する達成率は一番右です。

前期比で、増収増益となりました。

完成工事高は4,302億円、前期比1,190億円増加、達成率96%です。

完成工事総利益は327億円、前期比99億円増加、達成率は93%です。

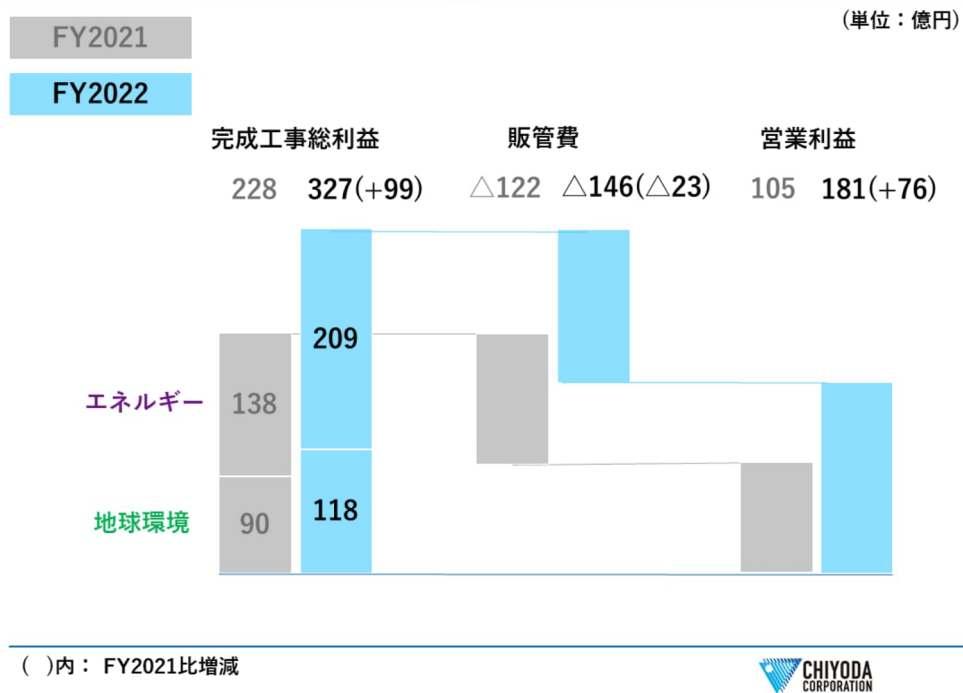
完成工事総利益率は7.6%で、前期比0.3ポイント改善しています。

営業利益は181億円、前期比76億円増加、達成率91%です。

経常利益は203億円、前期比89億円増加、達成率102%です。

純利益は152億円で、達成率は101%です。

3. 利益増減分析



右下4ページ、「3. 利益増減分析」をご覧ください。

完成工事総利益、販管費、営業利益について、2023年3月期と前期の実績を対比して示しております。

先ほどご説明した通り、完成工事総利益は327億円、前期比99億円の増加です。エネルギー分野209億円、地球環境分野118億円と、両事業分野とも前期から順調に伸びています。

販管費は、146億円、前期比23億円増加です。Withコロナでの経済活動回復に伴う営業活動の活発化と成長戦略を推進するための研究開発費の支出による増加ですが、再生計画の目標値150億円を下回り、抑制的にコントロールしています。

この結果、営業利益は181億円、前期比76億円の増加となっています。

4. バランスシート

(単位：億円)

	FY2021	FY2022	増減		FY2021	FY2022	増減
流動資産	3,727	3,830	103	流動負債	3,507	3,563	56
現金・預金等	688	612	△76	支払手形・工事未払金	961	1,294	333
営業資産*1	590	586	△4	契約負債 (未成工事受入金)	1,434	1,633	199
未収入金	832	399	△433	工事損失引当金	348	279	△69
JV持分資産*2	1,414	1,616	202	未払金	440	175	△266
短期貸付金	114	476	362	固定負債	290	280	△9
固定資産	227	236	9	純資産	158	223	65
総資産	3,954	4,066	112	負債・純資産	3,954	4,066	112
				自己資本	157	222	65
				自己資本比率	4.0%	5.5%	+1.5pt

*1 営業資産 = 受取手形・完成工事未収入金及び契約資産 + 未成工事支出金
*2 JV持分資産 = ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金



5

右下5ページ、「4. バランスシート」をご覧ください。

左側の一番下、総資産は、前期3,954億円から2023年3月期4,066億円に112億円増加しています。

資産・負債項目の増減について2点ご説明します。

1点目、手持案件の進捗に伴い、資産項目で、「ジョイントベンチャー持分資産」が増加する一方、負債側では、「支払手形」、「工事未払金」、「契約負債」が増加しています。

2点目、第1四半期に完工済み案件の係争が和解により決着したことに伴い、資産側で「未収入金」、負債側で「未払金」が減少しています。「未収入金」の減少幅が相対的に大きくなっていますが、回収した資金のかなりの部分を「短期貸付金」に計上しているためです。

表の右下、自己資本は前期比65億円の増加、222億円です。自己資本比率は5.5%、前期比1.5ポイント改善しています。

5. 受注高・受注残高

(単位：億円)

	FY2022 受注高	FY2022 受注残高
エネルギー分野	967	8,435
地球環境分野	583	3,054
合計	1,550	11,489

受注残高主要案件	1,000億円以上	50億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG	米国ゴールデンパスLNG インドネシア・タンゲーLNG
地球環境分野	インドネシア銅製錬	CO ₂ メタネーション設備 バイオ医薬品原薬製造工場

右下6ページ、「5. 受注高・受注残高」をご覧ください。

受注高は1,550億円、通期予想3,000億円に対して5割程度です。

受注残高は1兆1,489億円、現在の完成工事高の約3年分をカバーする水準です。主要案件は下表をご参照ください。

6. 2024年3月期予想

(単位：億円)

	FY2023	通期予想
完成工事高		4,500
完成工事総利益		350
完成工事総利益率		7.8%
販売費及び一般管理費		△150
営業利益		200
経常利益		200
純利益*		150
受注高		3,000
為替レート(円/米ドル)		130

* 親会社株主に帰属する当期純利益



7

右下7ページ、「6. 2024年3月期予想」をご覧ください

2023年3月期通期予想と同水準を見込んでいます。

完成工事高は4,500億円です。

引き続き、カタールNFE LNG、インドネシア銅製錬など主要案件の進捗が寄与します。

完成工事総利益は350億円、完成工事総利益率は7.8%です。

販管費は150億円です。

営業利益、経常利益はいずれも200億円、純利益は150億円です。

受注高は、3,000億円です。

【付表】 完成工事高・受注残高内訳

(単位：億円)

FY2022 完成工事高

【分野】

エネルギー	2,719	63%
■ LNG・その他ガス関係	2,424	56%
■ 石油・石油化学	296	7%
地球環境	1,582	37%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	341	8%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,241	29%
合計	4,302	100%

【地域】

海外	3,370	78%
■ 中近東・アフリカ	1,520	35%
■ 北中南米	559	13%
■ アジア・オセアニア	1,291	30%
■ その他海外	0	0%
■ 国内	932	22%
合計	4,302	100%

FY2022 受注残高

【分野】

エネルギー	8,435	73%
■ LNG・その他ガス関係	8,168	71%
■ 石油・石油化学	267	2%
地球環境	3,054	27%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	427	4%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	2,627	23%
合計	11,489	100%

【地域】

海外	10,566	92%
■ 中近東・アフリカ	6,920	60%
■ 北中南米	934	8%
■ アジア・オセアニア	2,712	24%
■ その他海外	0	0%
■ 国内	922	8%
合計	11,489	100%



8

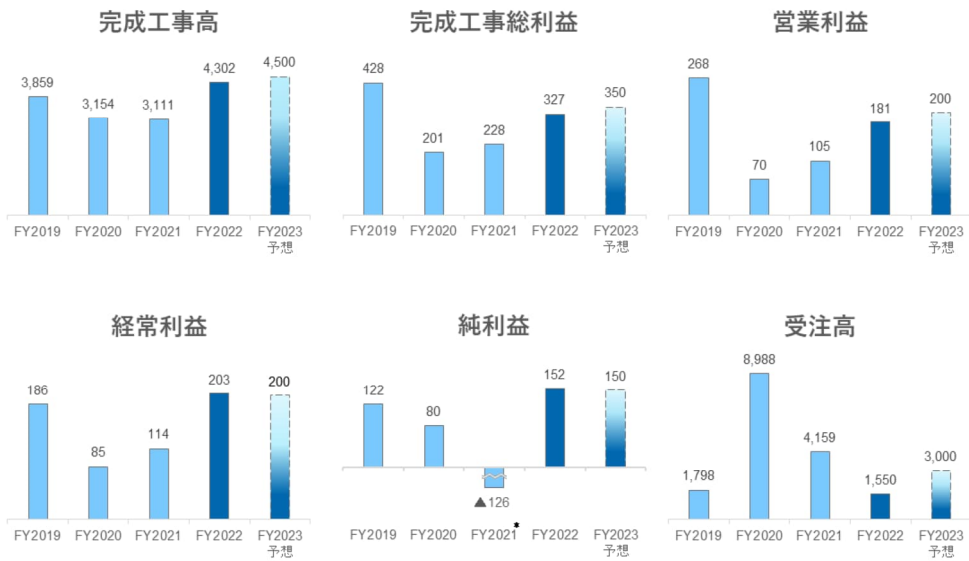
次のスライド、右下8ページ、9ページは付表です。

右下8ページは、2023年3月期の完成工事高、受注残高の分野別、地域別の内訳です。

。

【付表】業績推移

(単位：億円)



* 特別損失 ▲204億円含む (顧客との和解等によるプロジェクト関連損失)



9

右下9ページは、2020年3月期以降、過去4年間の業績推移および2024年3月期の通期予想をグラフで一覧にしています。

以上で決算概要の説明を終わります。

Energy and Environment in Harmony



千代田化工建設株式会社 総務部IR・広報・サステナビリティ推進セクション <https://www.chiyodacorp.com/jp/>

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。